

# 【R3:情-2】 福井駅周辺における歩行者空間活用に向けた官民連携可能性調査 (実施主体:福井県福井市)

福井市基礎情報(R4.2.1時点)  
 ・人口:259,426人  
 ・面積:536.41km<sup>2</sup>

【事業分野:エリアマネジメント】【対象施設:市中心部県道及び市道】【事業手法:歩行者利便増進道路(ほこみち)制度】

## 調査のポイント

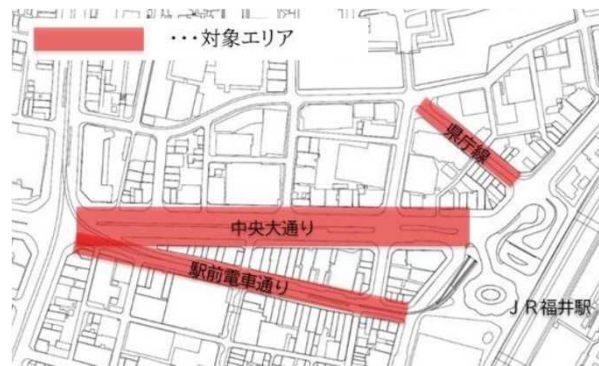
- ほこみち制度を活用し魅力ある歩行者空間の創出と官民連携による新たな公共空間の管理運営のあり方について、以下の取り組みにより明らかにした。
- 道路を活用した社会実験により、体験することで新たな公共空間の利用ニーズと事業可能性が顕在化し、事業プロセスを「見える化」することができる。
  - 社会実験前から官民対話を行い、事業者の発掘と地域性に合わせた公共空間の運用スキームを検討でき、事業の実現可能性を上げる効果がある。

## 事業／施設概要

### ○本事業の背景・趣旨

- ・対象路線は福井市中心部にあるメイン通りであるが、賑わいや歩行者の回遊、滞留する空間が十分に創出されていない。
- ・本事業は、右記の対象路線において、歩行者利便増進道路(ほこみち)制度を活用し、歩行者の滞留・賑わい空間の導入を促すものである。
- ・その整備手法として、民間活力の導入可能性を検討するとともに、ほこみち制度利用により、道路空間の継続的利用に対する福井駅周辺のにぎわい創出をはかるものとする。

### ○事業対象地区および路線



- ・中央大通り(県道、道路延長L=約400m、幅員W=44m)
- ・県庁線(市道、道路延長L=約130m、幅員W=20m)
- ・駅前電車通り(市道、道路延長L=約270m、幅員W=22m)

## 目的・これまでの経緯

### ○本調査の目的

- ・先導的官民連携支援事業に基づく各種調査や対象エリアにおける歩行者空間の社会実験を通じて、ほこみち制度等を活用した道路の利活用計画を検討すること、及びほこみち制度活用に向けた公募占用指針を作成することを目的とする。
- ・本調査で作成した社会実験計画に基づき、令和3年10月2日(土)～17日(日)にかけて社会実験を実施した。

### ○検討経緯

- ・令和5年度末に控えた北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺における再整備が進む中、福井駅周辺に持続的ににぎわいを創出することを目的として、福井県、福井市、企業、団体が一体となって県都のまちづくりについて協議する会「県都にぎわい創生協議会」が創設された。
- ・協議会の部会の一つである「エリアマネジメント部会」では、2040年を目標とする「ランドデザイン」を策定予定。
- ・ランドデザインの中で、公共空間の利活用を促進することを目的に歩行者利便増進道路制度(ほこみち)の活用を検討することとなった。

## 調査結果① 事前調査

### ○社会実験前事前調査の主旨と概要

事前準備で明らかにすべき事項	ほこみちに対する市民の認知向上	事業者の参画意識・機運醸成
	利害関係者の理解・参画意識	市内関係団体の理解と事業協力
事前調査の方法	①事業関係者とのワークショップ ②利用者・出店事業者へのアンケート	

### ○社会実験前アンケート調査概要

- ・ターゲット(利用者・出店事業者)毎の課題認識やほこみちニーズを明らかにするため、QRコードのWEBアンケートを実施。
- ・社会実験前後の意識やニーズの変化を探るため、アンケートは社会実験前、実験中、実験後の3回実施。

地域のランチ形態はお弁当持参メインで外食機会が少ない。  
 キッチンカー事業者等の駅前での出店意向が一定程度ある。  
 ⇒路上でのキッチンカー事業等賑わい創出ニーズが見込める。

### ○社会実験前ワークショップ開催概要

- ・下記のテーマで3回実施。
- ・各回15～30名程度の参加。



- ①利用者、事業者のほこみちへの理解の醸成
- ②市民の社会実験・ほこみちへの期待感の向上

参集した事業関係者	ワークショップのテーマ
○再開発事業関係者	◆ほこみち連携のメリット理解、テナント育成
○沿道地権者・既存事業者	◆ほこみちを自分ゴトとして捉える意識醸成
○地元経済団体	◆ほこみち事業を市の活性化のトリガーとして社会運動化

# 【R3:情-2】 福井駅周辺における歩行者空間活用に向けた官民連携可能性調査(実施主体:福井県福井市)

## 調査結果② 社会実験の実施(令和3年10月2日~17日)



### ②地域の課題解決に資する社会実験運営と担い手の発掘

※地域のランチタイムの充足や道路の新たな使い方を顕在化、子育て世代など利用者層の拡大



ふくみち動画を是非ご参照ください!  
<https://www.youtube.com/watch?v=gPqBfte42Og&feature=youtu.be>

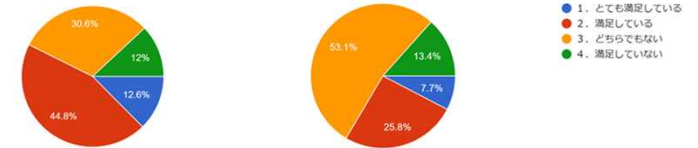
### ①将来の回遊を見据えた実験エリア設定と設置

## 調査結果③ 社会実験の結果分析

- ①平日はオフィスワーカーの憩い、休日は家族連れによる賑わいなど、道路空間の活用、まちなかの滞留・回遊機会が増大
- ②インスタなどSNSによる市民周知の拡大、機運の醸成
- ③好調な売り上げにより社会実験出店事業者の意欲が増大
- ④社会実験を体験しより良いランチ環境に対する意識にシフト(下図参照)

Q あなたは現状のランチ形態に満足していますか?(社会実験前に回答)

Q 社会実験終了後の通常のランチ形態に満足していますか?

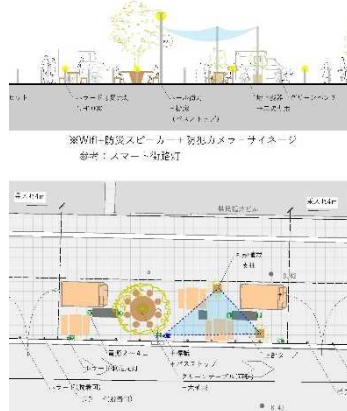


## 調査結果④ ほこみち利活用計画案の検討

### ○社会実験結果を受け利活用計画案を検討

#### 可動式植栽の提案

歩行者優先道路のシンボルツリー、キッチンカーの設置や動線確保に調整が可能。市民の憩いの場となる木陰空間を創出



#### 上部空間の演出

タープの簡易設置装置を配置、市民ニーズの高い日除け、季節感や賑わいを創出。会場サインにも有効

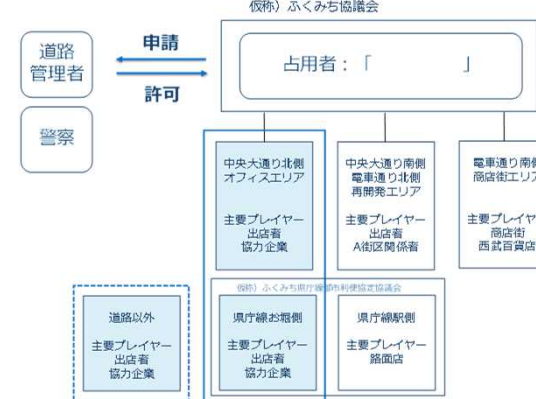
出店や使い勝手を意識した電源配置: 運営者目線のハード整備

可動式ストリートファニチャー: 利用者の利便性向上、空間演出の変化を手軽に行えるアイテムの設置

利便性と安全性を両立したポラード配置

## 調査結果⑤ 事業化方針及び道路占用指針案検討

### ○考えられるほこみち運営スキーム・ルール及び道路占用指針のポイント



- ①試行事業の蓄積による利活用・運用方針の確立
- ②路線毎の立地や担い手の違いを考慮したほこみち指定と運営組織の構築
- ③適切なリスク分担による官民連携運用体制の構築
- ④日常清掃の地域参加など既存活動のほこみち事業運用への組み込み
- ⑤公募によらず地域主体の実績も加味した担い手選定

## 事業化に向けた今後の展望

### ○事業化にあたっての課題

- ・さらなる担い手・事業者の発掘と事業への参画機会の拡大
- ・道路空間での試行事業等の活動の継続による機運の維持と醸成
- ・民間事業者が参入しやすい環境づくり(道路空間の運用ルール等)
- ・道路空間占有者選定までの継続的な官民対話の実施
- ・福井県、福井市をはじめとした関係者間の緊密な調整
- ・路線ごとの立地特性や担い手の地域差を考慮した適用制度の検討

### 今後の事業スケジュール

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年春
先導的官民連携可能性調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央大通り再整備</li> <li>ふくみちプロジェクト試行事業継続</li> <li>ふくみち協議会立ち上げ・システム構築</li> <li>占用候補者人材発掘・育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公募占用制度検討</li> <li>占有者選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほこみち運用開始</li> <li>道路共用開始</li> <li>再開発ビル開業</li> </ul>
新幹線開通事業工事中 駅前大通り北地区(A街区)再開発事業 工事中			新幹線開業 A街区再開発竣工